

平成 27 年度入学試験問題

総合問題 2

(90 分)

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この問題冊子の最終ページは、11 ページです。試験中に落丁・乱丁や印刷の不鮮明な箇所などに気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせて下さい。
3. 解答用紙 4 枚と下書き用紙 2 枚を配付していますので、確認して下さい。
4. 解答は必ず解答用紙に記入して下さい。解答用紙以外に記入したものは無効です。
5. 監督者の指示に従って、解答用紙の指定された欄に受験番号を記入して下さい。
6. 解答用紙にアルファベット、算用数字を記入する場合には、1 マスに 2 文字ずつ入れて下さい(ただし、字数が奇数の場合は、末尾の 1 文字は 1 マスに入れて下さい)。
7. 配付された問題冊子および下書き用紙は、試験終了後、持ち帰って下さい。

次の文章A～文章Dを読んで、問題1～問題11に答えなさい(なお、いずれの文章も、出題の都合上、必要な省略・修正を行った箇所がある)。

文章A

著作権の関係上、省略します。

著作権の関係上、省略します。

著作権の関係上、省略します。

(経済財政諮問会議専門調査会「選択する未来」委員会『未来への選択』)

文章B

著作権の関係上、省略します。

著作権の関係上、省略します。

(広井良典『人口減少社会という希望』朝日新聞出版)

文章C

著作権の関係上、省略します。

著作権の関係上、省略します。

(Sean McElwee and Lew Daly “What if economic growth is no longer possible in the 21st century?,” *The Week*)

(注) redistribution : 所得の再分配 panacea : 万能薬
paradigm : 図式, 定式 unraveling : 破綻している
anomalous : 例外的な drag : 阻害要因
low-hanging fruit : 手っ取り早い抜け道 stagnation : 不況
one-off : 一回限りの stagnate : 停滞させる
feasible : 実現可能な

文章D

著作権の関係上、省略します。

〔孟子〕梁惠王

- (注) 梁：古代中国の戦国時代の大国魏ぎのこと 惠王：魏の第三代君主
寡人：王・諸侯の自称、徳の少ない人の意 不加少：減ってゆかない
孟子：戦国時代の思想家で、尊崇する孔子の教えを広めるべく諸国を遊説した
填然鼓之：進軍の太鼓をドンドンと打ち鳴らして
甲：戦場で身に着ける鎧よろい 曳兵：武器を引きずって

問題 1 次の文章は、文章Aと文章Bで述べられている人口動向の見通しや課題をまとめたものである。文章中の空欄ア～オに入る数字を、以下の語群の中から選び記号で答えなさい。

文章Aによれば、出生率が現状のまま推移すると、現在18歳の人が65歳以上の高齢者になる頃、日本の人口は 人程度になると予想される。しかし、将来的に安定した人口構造を保持するうえで 人程度であることが望ましい。

一方、文章Bによれば、現在、イギリスやフランスの人口は 人程度であり、日本の人口の概ね半分に過ぎない。国土面積が日本とほぼ同じドイツの人口は 人程度である。しかし、このまま日本の人口が減少を続けるという状況は好ましいとはいえ、子育てと仕事の両立や子育て支援の視点から、出生率は 前後まで回復することが望ましい。

語 群

| | | | |
|-------------|-----------------|-------------|-------------|
| a : 3,000 万 | b : 6,000 万 | c : 8,200 万 | d : 8,700 万 |
| e : 1 億 | f : 1 億 2,800 万 | g : 0.69 | h : 1.39 |
| i : 2.0 | j : 3.47 | | |

問題 2 文章Aによると、なぜ、人口減少に歯止めをかける必要があるのか、また、そのためにどうしたらよいのか、80字以内で答えなさい。

問題 3 文章Bの下線部①に関連して、次のグラフは、11世紀から現在にかけてのイギリスの人口動態を示したものである。これをふまえて、以下の問い(1)、(2)に答えなさい。なお、グラフの縦軸は対数目盛で表している。

著作権の関係上、省略します。

(B.R. ミッチェル編『イギリス歴史統計』原書房などから作成)

(1) グラフ中のAの時期について説明した次の文章の空欄ア～ウにあてはまる用語として適当なものを、以下の語群の中から選び記号で答えなさい。

14世紀から15世紀にかけては、の大流行による人口の激減、のような農民反乱、英仏間のをはじめとする危機的な現象があいついで起こった。

語 群

| | | |
|------------|-----------|----------------|
| a : ペスト | b : コレラ | c : ワット・タイラーの乱 |
| d : フロンドの乱 | e : 三十年戦争 | f : 百年戦争 |

(2) グラフ中のBの時期について、人口成長に関連したとされる歴史的事象として最も適当なものを答えなさい。

問題 4 文章Bの下線部②について、現在よりも人口が減ったほうが、環境・資源問題でプラスであると考えられる理由を90字以内で具体的に説明しなさい。

問題 5 文章Bの著者は、経済成長を目的として出生率を回復させることをどのように評価しているか、100字以内で説明しなさい。

問題 6 文章Cの下線部③の“the postwar growth paradigm”の内容を60字以内で説明しなさい。

問題 7 文章Cの下線部④の主張の内容を90字以内で説明しなさい。

問題 8 文章Cの下線部⑤の予想の内容を60字以内で説明しなさい。その際に、下線部⑥の“this target”の内容が分かるように説明すること。

問題 9 文章Dの傍線部⑦について、次の問い(1)、(2)に答えなさい。

(1) この一文を書き下し文に改めなさい。

(2) 文中の「此」とは、どういうことを指すか。話者である孟子の意図に即して、30字以内の現代日本語で説明しなさい。

問題10 出生率の低下が社会保障(年金)負担に与える影響を理解するために、次の
仮想国Aを考えた上で、以下の問い(1)~(3)に答えなさい。

仮想国A

仮想国Aの住民は全て70歳まで生きる。20歳から40年間働き、60歳で引退する。勤労する前者を「現役世代」、引退後の後者を「引退世代」とよぶ。引退世代は現役世代が拠出する年金で生活する。

この国の人口構成は次の通りである。X年以前の過去には、全ての年齢ごとに100万人が存在し、総人口は7,000万人であった。男女比は1:1、出生率は2.0であった。ところが、X年以後は、出生率が変化し1.0に低下した。(男女比は変わらない。)なお、全ての女性は20歳で出産するものと仮定する。

以下、出生率低下から t 年後($0 \leq t \leq 60$)を考える。なお人口については1万人単位で表記すること。(たとえば100万人は「100」と表記する。)

- (1) $0 \leq t \leq 20$, $20 \leq t \leq 40$, $40 \leq t \leq 60$, それぞれの範囲について、 t 年後の総人口を式で表しなさい。
- (2) 「現役世代人口 ÷ 引退世代人口」によって、引退者1人を支える現役者の数を表すことができる。 $0 \leq t \leq 20$, $20 \leq t \leq 40$, $40 \leq t \leq 60$, それぞれの範囲について、この値を式で表しなさい。
- (3) (2)をふまえ、引退者1人を支える現役者数の推移を、グラフで表しなさい。縦軸を「 t 年後の引退者1人を支える現役者数」、横軸を「 t 」として、グラフの概形を解答用紙の記入欄に描きなさい。

問題11 日本では今後50年にわたり人口減少社会が(多かれ少なかれ)続くことを前提にして、今あなたなら、どんな社会を築いてゆきたいと考えるか。文章A~文章Dを参考にして、あなたの考えをまとめ、その理由とともに400字以内で説明しなさい。